

令和8年第3回定例会一般質問

令和8年9月8日・9日

(19枚のうち1枚目)

順位	発言者	質問事項	質問の要旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
1	楠元 彩子議員	1 災害時における避難所環境の充実について	(1) 国の補助金制度等を活用した指定避難所や体育館への空調設備の整備など、前回の定例会で答弁された考えと変わらないか伺う。 (2) 「避難生活期間が長期に及ぶと市営住宅や仮設住宅へと対応する。」と前回答弁されていたが、何日間ぐらい体育館での生活を想定しているのか伺う。 (3) 市営住宅が被災した場合、代替策はどのように考えているのか。また、その間、被災者はどこにいればいいのか伺う。 (4) 避難所での高齢者や乳幼児、支援を必要とされる方など要配慮者への熱中症対策について、市はどのような支援体制を整えているのか伺う。 (5) 停電時における避難所の空調設備の運用や、非常用電源の確保など市はどのように考えているのか伺う。	市長	
		2 風力発電について	(1) 本市において風力発電施設の騒音や睡眠への影響をどのような基準で評価するのか伺う。 (2) 環境基準を満たしているかどうかだけでなく、住民が安心して生活できる環境をどのように確保していく考えか伺う。 (3) 再生エネルギーの導入を進めるに当たっては、住宅地に近接した陸上風力発電だけでなく、洋上風力発電や太陽光、小水力、バイオマスなど、それぞれの地域特性を生かしたエネルギー政策を総合的に検討すべきと考えるが、市長の所見を伺う。	市長	

令和8年第3回定例会一般質問

令和8年9月8日・9日

(19枚のうち2枚目)

順位	発 言 者	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
1	楠元 彩子議員	3 子ども第三の居場所について	(1) 定員 20 人に対して、現在の登録児童数、実際の利用人数、年齢構成、利用頻度はどうなっているのか伺う。 (2) 学校、こども課、社会福祉協議会、民生委員（児童委員）などの情報共有や連携体制はどうなっているのか伺う。 (3) 食事や学習支援だけでなく、子どもの自己肯定感や生活習慣、社会とのつながりを育てる場としてどのような成果を目指しているのか伺う。 (4) 本市として財団等からの支援終了後も第三の居場所を継続していく考えがあるのか。そのための財源と運営体制をどのように考えているのか伺う。	市長	

令和8年第3回定例会一般質問

令和8年9月8日・9日

(19枚のうち3枚目)

順位	発 言 者	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
2	森田 幸一議員	1 本市の人口減少及び地域産業の担い手不足対策について	(1) 農業、林業、商工業、建設、介護、福祉など、本市における地域産業の担い手不足の現状と課題について伺う。 (2) 移住・定住促進と地域産業の担い手確保について伺う。 (3) 特定地域づくり事業協同組合制度の活用について伺う。 (4) 本市における特定地域づくり事業協同組合制度導入の可能性と今後の検討について伺う。	市長	

令和8年第3回定例会一般質問

令和8年9月8日・9日

(19枚のうち4枚目)

順位	発 言 者	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
3	武本 進一議員	1 英語教育の充実と、取り組みについて	(1) 本市の小、中学校における児童生徒の英語力について、全国や県との比較を含め、現在の状況をどのよう把握しているのか。また、特に話す力（スピーキング力）について、どのような課題があると認識しているのか伺う。 (2) 本市の児童生徒の英語力向上について、英検や外国語の熟達度を6段階で示す国際的な共通基準である CEFR 等を活用した具体的な到達目標を設定しているのか伺う。また、今後は児童生徒の英語力を客観的に評価や検証をするための指標を設ける考えがあるのか伺う。 (3) 現在の英語授業において、ALT や教員とのやり取りを含め、児童生徒一人当たりの英語による発話の機会をどの程度確保できているのか伺う。また、児童生徒の人数や学校規模に左右されず、一人ひとりが十分に英語を話す機会を確保するため、ICT を活用した新たな取り組みを検討する考えがあるのか伺う。 (4) GIGA スクール構想により整備された1人1台端末を活用し、海外在住の外国人講師等とオンラインでつなぐマンツーマン英会話について、本市教育委員会はどのような教育効果が期待できると認識しているのか伺う。また、現在のALT による英語教育と組み合わせることで、児童生徒の発話量やコミュニケーション能力を高める可能性について、どのように考えているのか伺う。 (5) オンラインでのマンツーマン英会話について、全国の自治体で導入や試行が進められている事例があることを踏まえ、本市においても、まずは小、中学校のモデル校を指定し、一定期間試行導入してはどうか	教育長	

令和8年第3回定例会一般質問

令和8年9月8日・9日

(19枚のうち5枚目)

順位	発 言 者	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
3	武本 進一議員		と考える。実施回数、対象学年、費用、児童生徒の発話量、英語学習への意欲や自信などを検証した上で、本格導入の可否を判断する考えはないか伺う。 (6) オンライン英会話は、自宅から外国人講師と英語でコミュニケーションを図ることが可能であることから、学校での授業参加が難しい不登校児童生徒に対する学習機会の確保にも活用できると考える。本市において、不登校児童生徒の英語学習や社会とのつながりを確保する手段の一つとして、オンライン英会話を活用する考えがあるのか伺う。 (7) 英語教育における、オンラインでのマンツーマン英会話について教育長はどのように思われるか伺う。		

令和8年第3回定例会一般質問

令和8年9月8日・9日

(19枚のうち6枚目)

順位	発 言 者	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
4	今村 謙作議員	1 市営住宅について	(1) 市営住宅の入居率を伺う。 (2) 入居に際し、前居住者の緊急医療情報キットのシールが貼ってあったり、床の状態が悪かったり、水が出ないなど瑕疵と思われる事案があったと聞く。貸し出す前のチェック体制はどのようなになっているのか伺う。 (3) 年数が経過し、取壊しを予定している市営住宅はどの程度あるのか伺う。 (4) 特定公共賃貸住宅について、空き部屋が多くなってきている。補助金適正化法などさまざまな問題があると思うが、値下げをして貸すなど利用の方法は考えられないか。	市長	

令和8年第3回定例会一般質問

令和8年9月8日・9日

(19枚のうち7枚目)

順位	発 言 者	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
5	岩元 努議員	1 おくやみデスクの設置状況について	(1) 新庁舎における「おくやみデスク」の設置とワンストップ窓口の構築について伺う。 ア 現在の伊佐市の対応について伺う。予約制、必要手続きの事前確認、申請書作成支援、関係部署との庁内連携等、伊佐市の運用状況を伺う。 イ 現在の伊佐市における死亡後の行政手続きの案内方法と、複数の担当課にわたる手続きについて、遺族の移動、待ち時間、書類記入等の負担をどのように認識しているのか伺う。 ウ 伊佐市の「おくやみデスク」の運用について、遺族の負担軽減だけでなく、庁内の情報共有や業務効率化を含めた行政改革として、どのように評価しているのか伺う。また、課題と改善点についての検証は。 エ 令和9年5月の新庁舎運用開始に向け、「おくやみデスク」または「おくやみワンストップ窓口」の設置について、現在、庁内で具体的な制度設計の検討を行っているのか。ワンストップサービス提供を目指すのであれば、庁内調整、制度設計、試行、職員研修等を含め、導入に向けた具体的な検討状況を伺う。	市長	
		2 生活道路 30km/h 法定速度引き下げに伴う伊佐市の安全対策について	(1) 令和8年9月1日から、主に中央線や車両通行帯のない生活道路等について法定速度が 60km/h から 30km/h へ引き下げられる。伊佐市内では、どの道路が対象となるのか。対象道路の把握と、市民への周知方法について伺う。 (2) 全路線を一覧化することが難しい場合でも、通学路、学校周辺、住宅地、高齢者施設周辺、朝夕の通勤時間帯に交通量が多い道路、事故や速度超過等が懸念される道路などを重点的に紹介・周知できないか。また、学校・PTA・自治会等との連携についても伺う。	市長	

令和 8 年第 3 回定例会一般質問

令和 8 年 9 月 8 日・9 日

(19 枚のうち 8 枚目)

順位	発 言 者	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
5	岩元 努議員	3 農業用水不足に対する緊急対策と持続可能な農業経営について	(3) 30km/h を基準として、速度超過の程度に応じた違反点数、反則金、免許停止・取消し等について、市民が正しく理解できるよう警察と連携して周知できないか。今回の制度改正を、子どもや高齢者が安心して暮らせるまちづくりにつなげる考えについて、市長の見解を伺う。 (1) 農業用水不足の現状認識について、市は今回の渇水について、地域別の農業用水不足の状況、稲の被害状況及び被害面積等をどのように把握しているか。今後さらに水不足が続いた場合の被害拡大をどのように想定しているのか。 (2) 国・県の制度及び多面的機能支払交付金を最大限活用した上で、なお不足する経費について、ポンプ購入・借上げ、設置・撤去、資材、燃料費、電気料金、給水・運搬費等を対象とする「農業渇水緊急対策事業」等の市独自支援を創設する考えについて見解を伺う。 (3) 財源として、ふるさと納税基金を「農林業の振興」の目的に沿って活用できるか。また、不足する財源について財政調整基金を一般会計に繰り入れることが、地方自治法及び各基金条例上可能か、法的根拠を含め見解を伺う。 (4) 今回の渇水を、単なる一時的な水不足ではなく、農業経営の継続及び離農防止に関わる緊急事態と認識しているか。経営継続の意向を含めた実態把握を行い、農業従事者をつなぎ止めるための支援策を制度設計を含め、市長の見解を伺う。	市長	

令和8年第3回定例会一般質問

令和8年9月8日・9日

(19枚のうち9枚目)

順位	発 言 者	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
6	庵下 信一議員	1 新庁舎開庁後の菱刈庁舎の体制について 2 2025年国勢調査の結果について 3 集落支援員制度の活用について	(1) 菱刈庁舎の職員配置と業務内容について (2) 菱刈庁舎の職員配置見直し後の業務と現業務との相違点について (3) 菱刈庁舎で対応できない業務に対する住民支援について (4) 菱刈庁舎の体制に係る住民説明会の開催について ア 開催時期 イ 開催場所 (1) 2025年の国勢調査結果に対する見解について (2) 国勢調査結果の総括について (1) 7年度末の自治会の実態について ア 5年度以降7年度末までの設立、解散、休止、合併数 イ 自治会数と設立割合 ウ 自治会加入者数と加入率 (2) 解散や合併を懸念されている自治会について、把握されているか (3) 集落支援員制度が設立された背景について (4) 伊佐市の集落支援員制度に対する評価と活用実態について	市長 市長 市長	

令和8年第3回定例会一般質問

令和8年9月8日・9日

(19枚のうち10枚目)

順位	発 言 者	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
6	庵下 信一議員	4 物価高騰対応重点支援事業の結果について	(1) プレミアム商品券の対象となった世帯数のうち、引換券が確実に届いた世帯数と送達率について (2) 引換券が届いた世帯のうち、商品券購入した世帯数と購入率について	市長	

令和8年第3回定例会一般質問

令和8年9月8日・9日

(19枚のうち11枚目)

順位	発 言 者	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
7	星野 元興議員	1 人口減少時代に対応した、暮らしやすい伊佐市づくりについて	(1) 人口減少に対応した、暮らしを支える拠点づくりについて 人口減少が進む中、これまでと同じように市内すべての地域や施設、道路などを維持し続けることが、今後ますます難しくなることが予想される。 そこで、人口減少を単に「縮小」と捉えるのではなく、限られた人口や財源の中でも、市民一人ひとりがこれまで以上に暮らしやすさを実感できるまちづくりへ転換していく必要があると考える。 そこで、次の点について伺う。 ア 本市の人口が2万人を下回る時代が目前となっているが、この現状に対する市長の率直な思いと、今後のまちづくりに対する考えを伺う。 イ 今後は、市内全域にこれまでと同じ水準のサービスを維持するだけでなく、医療、福祉、買い物、公共交通など、日常生活に必要な機能を一定の地域に集め、便利に暮らせる「生活の拠点」をつくっていくことも必要ではないかと考えるが、市長の考えを伺う。 ウ 人口減少により利用者が減少する施設や道路などを、これまでどおり維持し続けることには限界がある。今後は、必要な施設やインフラを見極めながら、市民一人ひとりの暮らしに直接関わる福祉、教育、子育て、医療などの充実に、より重点を置くべきと考えるが、市長の考えを伺う。 (2) 「小さくても暮らしやすい伊佐市」のブランドづくりについて 人口を増やすことだけを目標とするのではなく、現在伊佐市に暮らしている市民が「伊佐市に住み続けてよかった」と思えるまちをつくること、人口減少時代にはますます重要になると考える。 豊かな自然、ゆとりある住環境、人とのつながりなど、伊佐市ならではの魅力を生かし、「小さくても豊かに暮らせるまち」として新たな価値をつくっていくべきではないか。 そこで、次の点について伺う。	市長	

令和8年第3回定例会一般質問

令和8年9月8日・9日

(19枚のうち12枚目)

順位	発 言 者	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
7	星野 元興議員		ア 今後は、他の自治体との人口の奪い合いだけを目指すのではなく、現在住んでいる市民の暮らしやすさや満足度を高めることを、より重視したまちづくりへ転換していくべきと考えるが、市長の考えを伺う。 イ 伊佐市の豊かな自然環境、ゆとりある暮らし、子育てのしやすさなどを生かし、「小さくても心豊かに暮らせる伊佐市」という新たなまちのブランドを打ち出していくことが必要と考えるが、市長の考えを伺う。		

令和 8 年第 3 回定例会一般質問

令和 8 年 9 月 8 日・9 日

(19 枚のうち 13 枚目)

順位	発 言 者	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
8	奥 浩一議員	1 伊佐農業公社の現状について	(1) 伊佐農業公社が現在実施している主な事業について、それぞれの事業内容と、市として公社に期待している役割について示せ。 (2) 伊佐農業公社に対する市の負担金 690 万 3,000 円について、この金額の算定根拠は何か。また現在の公社の事業規模や職員体制、事業内容に照らして、適正な金額と考えているのか伺う。 (3) この負担金は、公社の人件費・農作業受託・新規就農者育成など、具体的にどの事業にどのように充当されているのか伺う。 (4) これまで伊佐農業公社の研修を受けた人数と、そのうち伊佐市内で実際に就農した人数は何人か伺う。	市長	
		2 伊佐農業公社の今後について	(1) 志布志市農業公社は担い手不足を背景に平成 8 年度から農業研修を開始し、令和 7 年度までに 95 組、155 人を受け入れているが、志布志市農業公社の取り組みと伊佐農業公社を比較した場合、市としてどのような違いがあると認識するか伺う。 (2) 志布志市のように、伊佐農業公社を「担い手や新規就農者を育てる中核機関」として、さらに強化する必要があるとの考えはないか伺う。 (3) 重留地区多目的広場を利用して、研修農園や農地として整備を行い、伊佐農業公社を「単なる農作業支援の組織から、担い手育成・新規就農・農地確保まで一貫して担う中核組織へ強化する」といった考えはないか伺う。	市長	

令和 8 年第 3 回定例会一般質問

令和 8 年 9 月 8 日・9 日

(19 枚のうち 14 枚目)

順位	発 言 者	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
9	小田原 宏議員	1 大口城跡の保存・整備と文化財指定について	(1) 大口城跡は、新納忠元公の居城として知られる歴史的な場所であり、「大口城を愛する会」によって、長年にわたり除草や雑木の伐採、桜の植樹などの保存・整備活動が続けられている。令和 8 年 3 月には桜の植樹が 1,000 本に達し、また本年は新納忠元公の生誕 500 年という節目の年でもある。一方、大口小学校から大口城跡までの道（登山道）には安全面や維持管理上の課題もある。そこで、大口城跡を貴重な歴史資産として次世代に継承していくため、以下について伺う。 ア 現在の登山道の安全性について、市はどのように認識しているのか。 イ 大口小学校側から大口城跡まで、安全に歩いて登ることのできる「遊歩道」として整備する考えはないか。 ウ 将来的に観光名所として活用するため、案内表示、休憩場所、説明板等を含めた整備を検討できないか。 (2) 伊佐市文化財保護審議会条例では、文化財の保存及び活用に関する重要事項について調査・審議するため、文化財保護審議会を設置している。また、文化財の指定を行う場合には、あらかじめ文化財保護審議会に諮問することとされている。そこで、近年の文化財保護審議会の活動状況について伺う。 ア 直近 5 年間で文化財保護審議会は何回開催されているのか。 イ それぞれの開催において、どのような事項について審議・調査が行われたのか。 ウ 大口城跡について、これまで文化財保護審議会において調査・審議されたことがあるのか。	教育長	

令和8年第3回定例会一般質問

令和8年9月8日・9日

(19枚のうち15枚目)

順位	発 言 者	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
9	小田原 宏議員	2 移住・定住を促進する空き家の家財・残置物処分支援について	(3) 伊佐市文化財保護条例では、市にとって歴史上又は学術上価値の高い城跡を「伊佐市指定文化財」として指定することができるとされている。大口城跡は、新納忠元公の居城として歴史的価値を有するだけでなく、現在では前述の「大口城を愛する会」を中心とした市民有志による桜の植樹活動などを通じて、新たな観光・交流の場としても活用されつつある。そこで伺う。 ア 大口城跡について、市として歴史的・文化財的価値をどのように評価しているのか。 イ 大口城跡を市指定文化財として指定することについて、これまで検討したことがあるか。また、指定するためにはどのような調査や手続きが必要となるのか。 ウ 今後、文化財保護審議会において大口城跡の市指定文化財への指定について、調査・審議する考えはないか。 (1) 伊佐市では、平成29年10月から空き家・空き店舗バンク事業を開始し、空き家の有効活用と定住促進を図っている。令和7年3月議会の一般質問では、令和7年1月末時点で登録175件、成約115件、成約率66%との答弁があり、空き家バンクは移住・定住の受け皿として一定の成果を上げていると考える。一方、登録に当たり、多くの家財道具や使用不能な物が残っている場合は、あらかじめ処分する必要があるとの説明もあった。今後、空き家バンクをさらに活用し、移住・定住につなげていくためにも、家財・残置物の処分が新たな課題の一つと考える。そこで伺う。 ア 空き家バンクへの登録や売却・賃貸を進める際、家具、家電、生活用品等の家財・残置物の処分費が、所有者にとって大きな負担となり、空き家の流通や活用を妨げる要因の一つになっていると考えるが、市の認識を伺う。	市長	

令和8年第3回定例会一般質問

令和8年9月8日・9日

(19枚のうち16枚目)

順位	発 言 者	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
9	小田原 宏議員		イ さつま町や阿久根市、出水市など、空き家バンクへの登録等を条件として家財処分費を補助している自治体の制度をどのように評価しているか。 ウ 移住・定住の促進と空き家の有効活用をさらに進めるため、県内の複数自治体で実施されているような、空き家バンクへの登録等を条件とした家財・残置物処分費の補助制度を伊佐市において導入する考えはないか。		

令和8年第3回定例会一般質問

令和8年9月8日・9日

(19枚のうち17枚目)

順位	発 言 者	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
10	畑中 香子議員	1 伊佐の農業政策について	(1) 農家の声では、「畑が地割れしている。かぼちゃが深刻」「こんなに水が不足している状況は初めて」「ポンプを購入しようとするが不足している」「ポンプの電気使用量が多額」「取水をめぐる争いが起きている」と聞くが、市として緊急対策が必要ではないか。 (2) 川からの取水は河川法により制限があるが、災害や緊急の場合は国土交通省の許可により取水ができるとのことである。川からの取水や、消防車や農業用の給水車などあらゆる手段を用いて打てる対策を講じるべきではないか。 (3) このままでいった場合、渇水被害は何割程度になるか。 (4) 今年度コメの価格低下もあわせて減収補填を行うべきではないか。 (5) 本市でも渇水被害を想定した対策を講じておく必要があるのではないか。 (6) 伊佐市を取り囲む山の大規模な皆伐が目につくが、今回の渇水との関連は。 (7) 水源涵養の面から、山の保全がますます重要になっているのではないか。	市長	

令和 8 年第 3 回定例会一般質問

令和 8 年 9 月 8 日・9 日

(19 枚のうち 18 枚目)

順位	発 言 者	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
10	畑中 香子議員	2 支所設置条例の制定について	(1) 今議会で支所設置条例が提案されているが、この支所内に教育委員会は出先機関として新たに設置されることになるのか、条例上は支所内には教育委員会は存在しないことになるのか。支所に教育委員会を置く理由は。 (2) 教育委員会を支所設置条例に規定しないが、実際には支所内に置くとした場合の地方自治法第 155 条 1 項との整合性は。 (3) 教育委員会と福祉関係各課は緊密な連携が必要ではないのか。これまで児童生徒のいる生活困窮世帯の相談などで、福祉課で生活保護には該当しないが教育委員会の就学援助費には該当するかもしれないと案内された場合や、その逆のケースにおいて、保護者が大口庁舎と菱刈庁舎の両方に行かなければならない負担があった。また、児童虐待など教育上の問題から福祉関係各課と緊密に連携しなければならない場面は多くあると思うが、2 庁舎体制における組織機構として、市民の移動負担軽減と迅速な全庁的連携にどう対応できると考えるか。 (4) 本庁舎内に教育支所の設置が必要ではないか。	市長 教育長	
		3 災害避難所の状況について	(1) 熊本地震の教訓から、体育館へのクーラー設置が問題となっている。国は体育館の空調整備については学習、地域拠点、災害時避難所としての役割から重要であるとし、令和 15 年までの時限措置として国庫補助率を 2 分の 1 に引き上げ、令和 17 年度までに 100%の整備率を目標としているが、本市の計画について伺う。 (2) 北九州市で家庭用エアコン設置の実証が行われているが、本市でも検討余地があるのではないか。 ア 交付税対象となるかどうか	市長	

令和8年第3回定例会一般質問

令和8年9月8日・9日

(19枚のうち19枚目)

順位	発 言 者	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
10	畑中 香子議員	4 小学校統廃合問題について	イ 設置業者の状況について (3) 避難所ではトイレの問題が深刻となるがトイレカー導入の考えは。 (1) 学校規模を大きくすることによる教育上のメリット・デメリットをどのように考えるか。 ア 国際的に学力が高いとされる国の児童数基準は イ 先生一人に対する子どもの適正人数は (2) 子どもと保護者の負担増に関して ア 統廃合により学校が自宅から遠くなると送迎の問題など保護者の負担が出てくるのではないか。 イ スクールバスでの送迎は子供に新たな心理的負担がかかることも考えられる。地域の人が一体となって見守る登下校も重要な教育の一環とされることについての見解は。 (3) 地域の核となる小学校がなくなると地域が寂れることについての見解は。 (4) 保護者や地域住民だけでなく市民全体の十分な理解を得るための情報公開について。	教育長 市長	